

オリコンサルグローバル 詳細設計・監理で223億円受注

オリエンタルコンサルタンツグローバルは7日、フィリピンの首都マニラを中心に南北を結ぶ総延長約178kmの南北鉄道事業計画のうち詳細設計と施工監理を受注したと発表した。受注総額は223億6000万円。

11月28日に国際協力機構（JICA）から、同社を代表とする6社JV（オリエンタルコンサルタンツグローバル、片平エンジニアリング・インターナショナル、パシフィックコンサルタンツ、東京メトロ、日本コンサルタンツ、ト



フィリピン運輸省で行われた「南北通勤鉄道事業（マロロスーツツバン）」の調印式

フィリピン南北鉄道事業

ニチコンサルタンツ)で「マロロスークラーク鉄道事業」と「南北鉄道事業南線」の詳細設計調査を受注した。

マロロスークラーク鉄道と南北鉄道事業南線の延長はそれぞれ70km。契約金額は79億6000万円。プロジェクトの実現の可能性を事前に調査するフィージビリティースタディー、基本設計、詳細設計などを行っていく。

1日には、フィリピン運輸省から「南北通勤鉄道事業（マロロスーツツバン）」の施工監理業務を5社JV（オリエンタルコンサルタンツグローバル、片平エンジニアリング・インターナショナル、トニチコンサルタンツ、パシフィックコンサルタンツ、日本工営）で受注。同日、現地で調印式が開かれた。

南北通勤鉄道事業のマロロスーツツバン間の契約金額は144億円。延長は約38kmで、高架・駅・車両基地建設工事の施工監理などを手掛ける。

オリエンタルコンサルタンツグローバルは、これまで、同鉄道の中心部に当たる南北通勤鉄道事業（マロロスーツツバン）の詳細設計調査を実施していた。